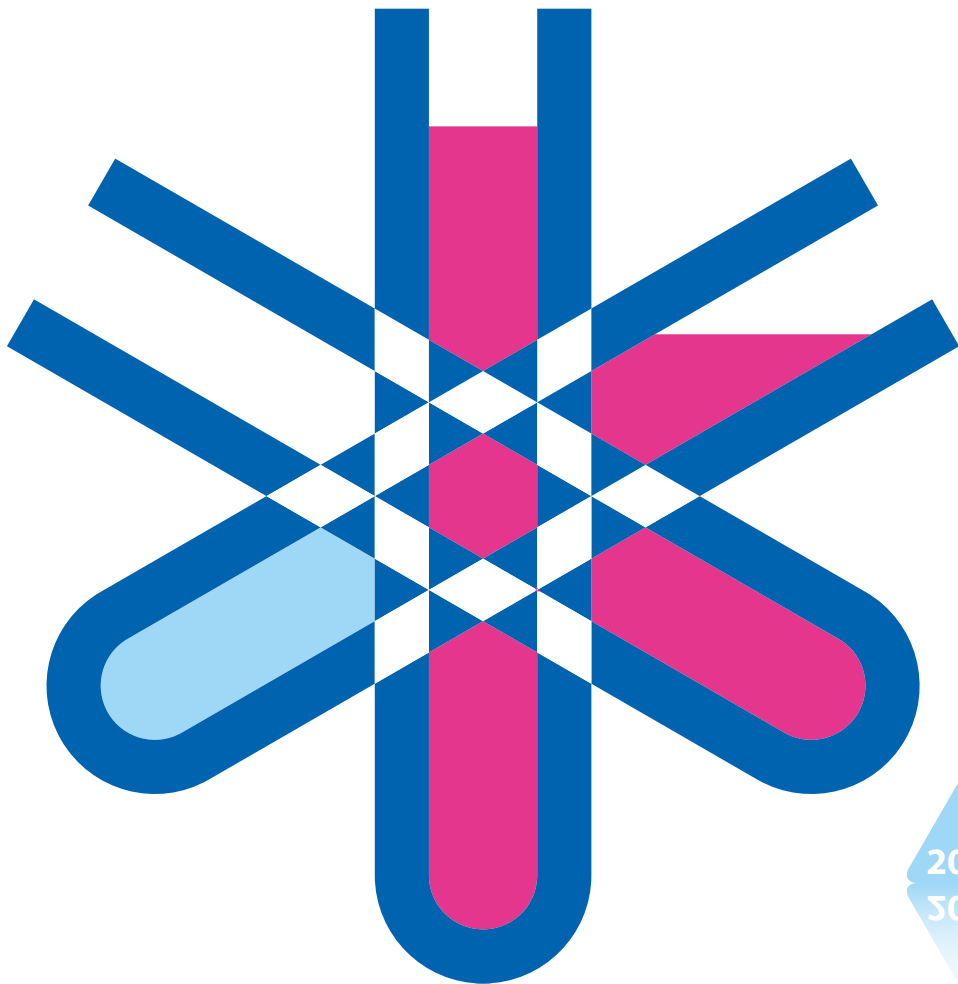


横查情報月報



2024
5054

10
10

横浜市衛生研究所

令和6年10月号 目次

【検査結果】

医動物・種類同定検査結果（令和6年7月～9月）	1
夏期食品収去検査結果（令和6年度）	3
農産物の残留農薬検査結果（令和6年7月～8月）	5

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年9月）	7
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和6年9月）	8
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>



医動物・種類同定検査結果（令和6年7月～9月）

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類等の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和6年7月から9月の3か月間の種類同定検査報告件数は、昆虫類以外の節足動物2件(クモ目)、その他2件でした。

詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>車のバンパー及び びリアバンパー にクモが付いて いた。 〈8月〉</p> <p>会社の敷地内 で複数のクモを 発見した。 〈8月〉</p>	 <p>背面</p> <p>腹面</p>	セアカゴケグモ (クモ目)	<p>基本的に攻撃性はないが毒を持っており、外来生物法に基づく特定外来生物に指定されている。</p> <p>体色は黒く、背面中央部に赤い縦長の斑紋、腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。</p>
<p>床清掃中に、カー ペットに落ちて いた卵様のもの を発見した(ト コジラミの卵の 疑いで搬入され た)。 〈7月〉</p>		不明	トコジラミの卵(長円形で乳白色)ではない。
	<p>雌成虫、黒色、背面に赤い 斑紋、腹面に砂時計型赤い 斑紋あり 約8～10mm</p> <p>灰褐色、模様あり 約1.5mm</p>		

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
汚水の排水マスの コンクリート部 分に付着してい た。 〈9月〉	 <p data-bbox="402 573 737 645">乳白色、一部褐色部分あり 約9cm</p>  <p data-bbox="408 954 727 990">マイクロスコープ像(×20)</p>	不明	動物ではない。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

夏期食品収去検査結果（令和6年度）

夏期食品等一斉点検は、厚生労働省から出された「令和6年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されるものです。

本市においても令和6年6月1日から8月31日までを重点監視期間と定め、一斉点検を行いました。

期間内に医療局食品専門監視班と各区福祉保健センターが収去し、搬入された検体について、当所が行った検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

菓子類、清涼飲料水、野菜類・果実及びその加工品等の食品143検体（輸入品124検体、国産品19検体）について、保存料、着色料、甘味料など3,192項目の検査を実施しました（表1）。

輸入菓子から日本では使用が認められていない酸化防止剤（TBHQ）が検出され、福祉保健センターが輸入者を所管する自治体に調査を依頼しています。

表1 食品添加物検査

令和6年6月～8月

食品分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目				
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤
魚介類加工品	9	0	183	27	136	18	2	0
穀類及びその加工品	4	0	89	12	68	0	9	0
野菜類・果実及びその加工品	15	0	300	34	221	21	23	1
菓子類	37	1	783	102	515	84	82	0
清涼飲料水	27	0	816	270	459	84	3	0
酒精飲料	10	0	190	69	102	12	7	0
かん詰・びん詰食品	28	0	558	103	357	25	72	1
その他の食品	13	0	273	52	187	21	13	0
合 計	143	1	3,192	669	2,045	265	211	2

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

規格基準検査の内訳は、魚介類9検体、冷凍食品4検体、清涼飲料水20検体、計33検体37項目でした。検査の結果、規格基準^{*1}違反はありませんでした(表2)。

また、規格基準のないその他の食品23検体は、旧衛生規範^{*2}の項目について検査を実施しました。ふきとり14検体は独自項目について検査を実施しました(表3)。

^{*1} 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたものことです。

^{*2} 旧衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。食品衛生法の改正に伴い令和3年6月1日廃止されました。

横浜市では現在、食品営業者への衛生指導のための参考値として、衛生規範で示された数値を使用しています。

表2 規格基準検査結果 令和6年6～8月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反 検体数
魚介類			
生食用鮮魚介類(刺身用切り身等)	9	9	0
冷凍食品			
無加熱摂取冷凍食品	1	2	0
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	1	2	0
凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品	2	4	0
清涼飲料水			
清涼飲料水	16	16	0
ミネラルウォーター(殺菌又は除菌有)	4	4	0
合 計	33	37	0

表3 その他の細菌検査結果 令和6年6～8月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数
その他の食品		
加熱そうざい・弁当類(加熱品)	18	108
未加熱そうざい・弁当類(未加熱品)	4	18
そうざい半製品(未加熱処理品)	1	3
ふきとり		
ふきとり(器具等)	14	14
合 計	37	143

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

農産物の残留農薬検査結果(令和6年7月～8月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁*は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和6年7月～8月に医療局食品専門監視班及び各区福祉保健センターが収去した市内産農産物の検査結果を報告します。

市内産農産物については、7月にきゅうり、トマト、なす及びばれいしょ各3検体、とうもろこし及びにんじん各1検体の計14検体、8月になす5検体、ばれいしょ3検体、オクラ2検体、えんさい(空心菜)及びピーマン各1検体の計12検体、合計で26検体の検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。トマト3検体、オクラ、きゅうり及びなす各1検体から延べ8項目の農薬が検出されましたが、基準値を超えたものではありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

*令和6年4月1日に、食品衛生基準行政は厚生労働省から消費者庁に移管されました。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果 (令和6年7月～8月)

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
えんさい(空心菜)	1	0			
オクラ	2	1	アセタミプリド	0.02	1
きゅうり	3	1	チアメキサム	0.05	0.5
とうもろこし	1	0			
トマト	3	3	{アゾキシストロビン	0.01	3
			{チアメキサム	0.01	2
			{アセタミプリド	0.05	2
			{ボスカリド	0.06	5
			ジノテフラン	0.03	2
なす	8	1	ジノテフラン	0.06	2
にんじん	1	0			
ばれいしょ	6	0			
ピーマン	1	0			

注) 中括弧({)は同一検体から検出されたもの

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
BHC(α, β, γ及びδの和)	0.005	○	—	○	—	—	エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	○	—	エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	—	エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	—	エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	○	エンドリン	0.005	○	—	—	—	—
アセフェート	0.01	○	○	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	○	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	—	○	○	○	クミルロン	0.01	○	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	○	—	クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○	クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	○

表 2(続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○
クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	○	フェンクロールホス	0.01	○	○	○	○	○
クロクスロン	0.01	○	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	—
ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	—	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	—	フルジオキソニル	0.01	○	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	—	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	—
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	—	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○
シラフルオフェン	0.01	○	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○	○
チアクロブリド	0.01	○	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
チアメキサム	0.01	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	—	○	—	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○	ベンシクロン	0.01	○	○	○	○	○
トリコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○
トリフルラリン	0.01	○	—	○	—	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○	○
トリフロキシストロピン	0.01	○	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○	—
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○	マイクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	○	メタミドホス	0.01	—	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	○
ピフェントリン	0.01	○	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○	—
ピリダベン	0.01	○	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○	メラクロール	0.01	○	○	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○	○
ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○	リンデン(γ-BHC)	0.005	○	○	○	○	○
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○	○
ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○	—
フィプロニル	0.002	○	○	○	○	○							

農産物の種類 A:えんさい、オクラ、にんじん、トマト、ピーマン B:なす C:ばれいしょ D:きゅうり E:とうもろこし
○:実施、—:実施せず

*DDTは*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*o,p'*-DDT及び*p,p'*-DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年9月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和6年9月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和6年9月に追加・更新した主な記事は、9件でした。

掲載月日	内容
9月2日	熱中症情報(2024年9月2日)
9月9日	熱中症情報(2024年9月9日)
9月12日	手足口病流行情報(2024年9月12日)
9月17日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第9回） 熱中症情報(2024年9月17日)
9月18日	感染症に気をつけよう(9月号)
9月19日	手足口病流行情報(2024年9月19日)
9月25日	熱中症情報(2024年9月25日)
9月26日	手足口病流行情報(2024年9月26日)

2 記事紹介

熱中症情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/necchusho/index.html>

手足口病流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/hfmd.html>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/infk-kabaikai.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年9月）

《今月のトピックス》

- 百日咳、伝染性紅斑、マイコプラズマ肺炎の報告が増加しています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多くなっています。肉などの食品は十分に加熱し、調理や食事の前、トイレの後などにはしっかり手を洗いましょう。
- 手足口病、新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生し、10代の報告、妊婦の報告もみられます。より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年8月19日～9月22日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	4件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件
腸管出血性大腸菌感染症	20件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
E型肝炎	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	5件	梅毒	40件
アメーバ赤痢	2件	破傷風	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	百日咳	23件
急性脳炎	2件	薬剤性アシネトバクター感染症	1件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件		

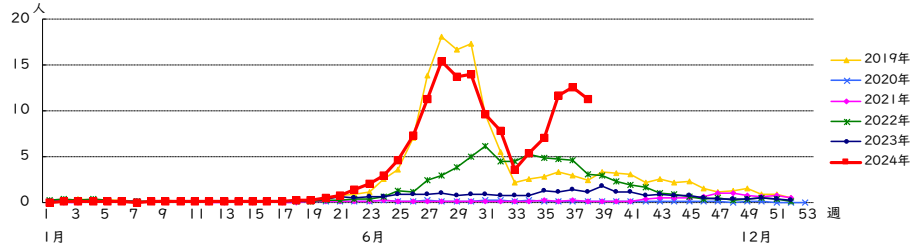
1. **細菌性赤痢**:10歳未満～60歳代で、いずれも Sonnei(D群)です。いずれも国内での感染で、経口感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が3件です。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～90歳代で、O血清群は O157 が14件、O103、O128、O145、O148 が各1件、O血清不明が2件です。経口感染と推測される報告が11件、経口感染又は接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が8件です。
3. **E型肝炎**:40歳代及び80歳代で、いずれも経口感染と推定されています。
4. **レジオネラ症**:50歳代～80歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が1件、塵埃感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
5. **アメーバ赤痢**:40歳代及び70歳代で、いずれも腸管アメーバ症です。いずれも感染経路等不明です。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～90歳代で、以前からの保菌と推定される報告が2件、医療器具関連感染と推定される報告が1件、以前からの保菌又は手術部位感染と推定される報告が1件、以前からの保菌又は院内感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が1件です。
7. **急性脳炎**:10歳未満及び70歳代で、病原体はいずれもヒトヘルペスウイルス6型(HHV6)です。感染経路等不明です。
8. **クロイツフェルト・ヤコブ病**:70歳代で、古典的CJDです。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:30歳～80歳代で、血清型A群が2件、G群が1件、血清群不明が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が2件、感染経路等不明が1件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～50歳代で、AIDSが1件、無症状病原体保有者が4件です。同性間での性的接触と推定される報告が4件、感染経路等不明が1件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、1回1件、無1件、不明1件)で、いずれも感染経路等不明です。
12. **梅毒**:10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期14件、早期顕症梅毒Ⅱ期13件、無症状病原体保有者11件、晩期梅毒1件です。性的接触による感染と推定される報告が35件(異性間25件、同性間3件、性別不詳7件)、感染経路等不明が5件です。
13. **破傷風**:60歳代(ワクチン接種歴不明)で、創傷感染と推定されています。
14. **百日咳**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴5回1件、4回10件、無1件、不明11件)で、家族内感染と推定される報告が5件、周囲の流行による感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が17件です。
15. **薬剤耐性アシネトバクター感染症**:40歳代で、感染経路等不明です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第34週	8月19日～8月25日
第35週	8月26日～9月1日
第36週	9月2日～9月8日
第37週	9月9日～9月15日
第38週	9月16日～9月22日

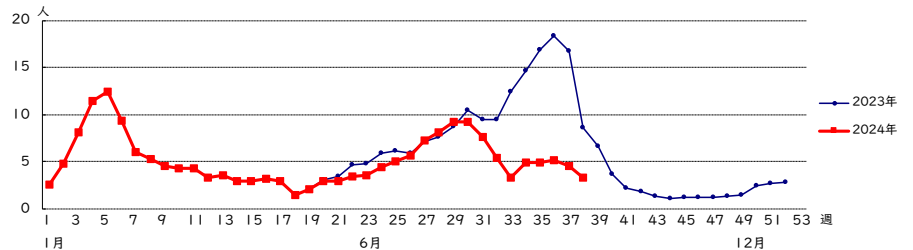
1 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第34週以降再び増加に転じ、第38週は11.22です。



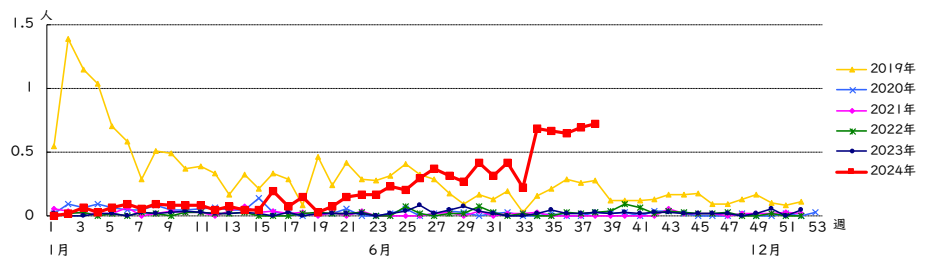
2 新型コロナウイルス感染症

2024年5月以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少しています。第38週は3.13です。



3 伝染性紅斑

2024年第20週以降増加傾向がみられ、第34週以降は例年の同時期と比較し多い状態で推移しています。第38週は0.72です。



4 性感染症(2024年8月)

性器クラミジア感染症	男性:42件	女性:30件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:9件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:0件	淋菌感染症	男性:9件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.50	2.50	2.25	2.00	4.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2024年第34週～第38週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点28件、内科定点8件、基幹定点1件、定点医療機関外2件でした。

10月10日現在、表に示した各種ウイルスの分離6株と遺伝子24件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第34週～第38週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	ヘルパンギーナ	手足口病	ウイルス性髄膜炎	咽頭結膜熱	新生児血球貪食性リンパ組織球症
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	1						
RS ウイルス	1	1					
パラインフルエンザウイルス 2型		1					
パラインフルエンザウイルス 3型	1						
ヒトメタニューモウイルス	1						
ライノウイルス	4						
コクサッキーウイルスA5型	2		1				
コクサッキーウイルスA6型				1			
コクサッキーウイルスA9型	1						
コクサッキーウイルスA10型	3						
コクサッキーウイルスA16型				2	1		
アデノウイルス2型	1						
アデノウイルス3型						1	
ヒトボカウイルス		1					
単純ヘルペスウイルス1型							1
エンテロウイルスD68型	1						
ヒトコロナウイルス*	1	1					
合計	2			2		1	1
	16	4	1	1	1	1	

*ヒトコロナウイルス: HCoV HKU1 or HCoV NL63

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第34週～第38週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症16件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症8件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5件、薬剤耐性アシネトバクター感染症5件、細菌性赤痢2件、サルモネラ食中毒2件、侵襲性肺炎球菌感染症、類鼻疽(疑い例)、ボツリヌス症(疑い例)、*Escherichia albertii* 精査、チフス菌精査が各1件でした。医療機関からの検査依頼は、サルモネラ症2件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレプトスピラ症(疑い例)3件、レジオネラ症、エルシニア腸炎(疑い例)各1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は百日咳1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024年第34週～第38週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	16	O157 : H7 VT1 VT2 (6) O157:H7 VT2 (5) O157:H-VT1 VT2(2) O103:H2 VT1 (2) Og100:H-/Hg30 VT2 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	8	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (4) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (1) A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (2) B群溶血性レンサ球菌 (1) G群溶血性レンサ球菌 (1)	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	5	<i>Acinetobacter bereziniae</i> (2) <i>Acinetobacter baumannii</i> (2) <i>Acinetobacter</i> sp. (1)	
	細菌性赤痢	2	<i>Shigella sonnei</i> (2)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
	類鼻疽(疑い例)	1	<i>Bergeriella</i> 又は <i>Neisseria</i> 属菌 (1)	
	ボツリヌス症(疑い例)	1	<i>Clostridium butyricum</i> (1)	
	<i>Escherichia albertii</i> 精査	1	<i>Escherichia albertii</i> (1)	
	腸チフス 精査	1	<i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> O18群	
	サルモネラ食中毒	2	<i>Salmonella</i> Nagoya (1) <i>Salmonella</i> Newport (1)	
	医療機関	サルモネラ症	2	<i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> O4群 (1) <i>Salmonella</i> Schwarzengrund (1)

分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所		1	尿	
	レプトスピラ症(疑い例)	1	全血	レプトスピラ遺伝子 陰性 (3)
		1	血清	
	レジオネラ症	1	喀痰	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)
	エルシニア腸炎(疑い例)	1	腸液	エルシニア属菌 培養 陰性 (1)

小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	鼻咽頭ぬぐい液	気管支炎	1	百日咳菌LAMP法及び培養法 陰性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】